

2014年10月19日 礼拝メッセージ

聖書：ルカの福音書19章11～27節

説教：持っている者は、さらに与えられ

1 不公平なたたとえ話？

ここに出て来るたとえ話にどのような印象を持たれたでしょうか。特に気になるのが、三人目のしもべのことです。この人は、主人から預かった一ミナをふろしきに包んでしまっておきました。主人はこれを見て怒り、預けた一ミナを取り上げ、ほかの人に与えてしまいます。それも、ない人に与えたのではなく、すでに十ミナも持っている人に与えたというのです。そして、26節のみことばでたとえ話が締めくくられます。「あなたがたに言うが、だれでも持っている者は、さらに与えられ、持たない者からは、持っている物までも取り上げられるのです。」

なんと不公平な話なのだろうと疑問に思うのではないですか。聖書の神は曲がったことは嫌いで、公平な方であるはずですが、ところがここでは、金持ちはますます豊かになり、貧乏人はますます貧乏になる、それが神のみこころですと語っているようで、とまどいます。

もちろんそんなはずはありません。最初に申し上げますが、これは引っかけ問題です。では、このたとえ話をどう理解すればよいのでしょうか。

2 たとえ

1) 神の国はすぐに来ると思っていた人々

イエスは、これからエルサレムに向かおうとされています。人々はそれを見てこう考えました。「先生がエルサレムに入ったなら、必ずローマ帝国の支配を打ち破ってください

り、スラエルに神の国を実現してくださるに違いない。」イエスはイスラエルを救ってくれるヒーローだと考えています。イエスがエルサレムに近づけば近づくほど、その期待がますます大きくなっていました。このたとえ話はそんなときに語られました。

2) 王位を受けるためしばらく不在になる

たとえ話を見ていきましょう。まず12節。「それで、イエスはこう言われた。「ある身分の高い人が、遠い国に行った。王位を受けて帰るためであった。」

「ある身分の高い人」とはだれのことか。私たちはびんと来ます。たとえ話を語っているイエスご自身です。そのイエスが遠い国に行つて、王位を受けて帰つてくるとあります。ここが、このたとえ話を正しく理解するための一つのポイントになります。たとえ話を聞いている人々は、イエスが遠い国に行くなどとは思っていません。エルサレムで革命を起こすと思込んでいます。ところが、イエスは、私たちの所からしばらくの間いなくなるというのです。なぜいなくなるのでしょうか。十字架につけられるからです。そのときイエスの頭には何がありましたか。いばらの冠をかぶせられていました。とげが皮膚に食い込み血が流れていました。「王位を受ける」とはそのような意味です。そのような姿のままこの方は殺されました。けれども、三日目によみがえられ、弟子たちに姿を現した後、この方は天に上げられました。遠い国に行つたというのは、そのことです。遠い国に行つ

たのですから、今イエスは私たちのそばにはおりません。今私たちはこの方が帰りを待っている状態です。

皆さんも経験があるはずです。家族の帰りが遅いときとか、家族が旅行に出かけて留守をしているとき、心の中で願うのではないですか。「早く帰って来て欲しい。」私たちはそれと同じように、主イエスが帰りを心待ちにしています。黙示録の最後には、「アーメン。主イエスよ、来てください」と記されています。

3) 金を預けられたしもべ

では、待っている間、私たちは何をするのか。それが次のテーマになります。たとえ話によれば、イエスはひとりひとりに一ミナずつ預け、そのお金で設けることを求めているように読めます。神さまは、私たちにビジネスで成功することを求めておられると主張する方さえおられます。本当でしょうか。

実はここも引っかけ問題です。ポイントを正しくとらえましょう。解決の糸口は、20、21 節です。「ご主人さま。さあ、ここにあなたの一ミナがございます。私はふろしきに包んでしまっておきました。あなたは計算の細かい、きびしい方ですから、恐ろしゅうございました。あなたはお預けにならなかったものを取り立て、お蒔きにならなかったものも刈り取る方ですから。」こう言ったしもべは、持っていたものを取り上げられてしまいました。なんとも厳しい扱いです。いつも言いますが、厳しいと思える所に実は本当の恵みが隠されています。どこに恵みがあるのか。

いいのでしょうか。このしもべは、自分の主人は厳しくてひどい人だと思い込んでいました。そうしたら、しかられてしまいました。

ということは、神は実はどんな方なのですか。しもべのことばを全部ひっくり返せばよいのです。

「神はきびしい方ではない。恐ろしい方でもない。預けていないものを取り立てるようなことなどしない。蒔いてもいないものを刈り取る方でもない。」積極的な表現に言い直せばこうなります。「神は心優しい方です。神は、私たちが支払わなければならない罪の代価を代わって支払ってくれる方です。神は私たちのために種を蒔き、蒔いたものを生長させ、刈り取る方です。」

そう言われても疑う方もいるでしょう。

「やっぱり、種を育てて、たくさんの実を結ばせる責任がある。そのために努力すべきである。」本当にそうでしょうか。イエスはなんと仰いましたか。13 章 18、19 節。「そこで、イエスはこう言われた。「神の国は、何に似ているでしょう。何に比べたらよいでしょう。それは、からし種のようなものです。それを取って庭に蒔いたところ、生長して木になり 空の鳥が枝に巣を作りました。」

こんなことを考えてみましょう。イエスが蒔いてくださった種は、私たちが一生懸命働かなければ生長しないと仮定するのです。私たちが怠けると生長しません。生長しないのなら神の国は永遠に来ません。イエスも来られません。ということは、どんな結論になるか。神の国が現れるかどうかは人間の努力によることになってしまう。それでは約束が違います。イエスは必ず再び来られると約束されたのです。蒔かれた種は神の力で生長して大きくなります。私たちの力によるではありません。

では私たちのすべきことは何か。

4) 王を憎む者たち

それが次のテーマとなりますが、その前にひとつだけ触れておかなければならないことがあります。14節。「しかし、その国民たちは、彼を憎んでいたので、あとから使いをやり、『この人に、私たちの王になってもらいたくありません』と言った。」この人たちは、27節でイエスからこう言われます。「ただ、私が王になるのを望まなかったこの敵どもは、みなここに連れて来て、私の目の前で殺してしまえ。」

イエスを憎む者たちとは、神の国を邪魔する勢力、神の真理に背き続ける邪悪な存在と考えてよいと思います。黙示録によれば、神の国が近くなる時、邪悪な者との戦いで教会は苦しみを通され、多くの者の血が流されると書かれています。

27節だけ読むと、恐ろしい神の印象で終わります。ところが、よく考えるとこれも逆さまです。イエスが再び来られる日、私たちが苦しめていたすべての邪悪な力は、神によってさばかれていくという約束です。もし私たちがこの世で不公平な扱いを受けて苦しむことがあっても、まったく気落ちする必要はない。きちんと公平なさばきが行われる。そのような恵みの約束として読むことができます。

3 信じて待つ

さて最後に考えます。神は私たちにそれぞれ一ミナずつ与え、それを増やしなさいと言われましたが、それは具体的にはどんなことなのか、そのことを考えます。先ほどの触れたように、神の国の種はすでに蒔かれております。この種は非常に強い力を持っていますから、自分の力で生長し、大きな枝を張るま

でになります。私たちの世話はいいりません。だからと言って、私たちがすべきことは何もないというわけではありません。すべきことが一つだけです。いや、この言い方は適切ではありません。たとえすべてのことを奪われても、私たちには一つだけできる事がある。そういった方が正確です。

私たちは、イエスが再び来られ日を待ち望んでいます。この地上に神の国が現れるまで、私たちは巡礼者のように神の国をはるかに仰ぎ見て旅をする旅人として歩いていきます。順調な旅ではありません。神を憎む力が私たちに苦しめていきます。私たちのうちにある罪が私たちに苦しめることもあります。様々な力が働いて、神の愛から私たちを引き離そうとします。つらくなることもあるでしょう。神を信じる力を失うこともあるでしょう。祈ることもできなくなるかもしれない。

でも、神はこう言っておられます。種蒔きのたとえの中の一節です。8章15節。「しかし、良い地に落ちるとは、こういう人たちのことです。正しい、良い心でみことばを聞くと、それをしっかりと守り、よく耐えて、実を結ばせるのです。」

良い地にならなければ、と思う必要はありません。神のみことばを信じているのなら、もう良い地になっています。正しい良い心にならなければと思うこともありません。私たちのうちに住んでくださる聖霊が、私たちに励まし、心を神に向けてくださいます。そもそも正しい良い心になれるのなら誰も苦労しません。よく耐えることができるだろうかと心配する必要もありません。神の救いの約束をさまたげる事はだれもできません。耐えられないと思っても、神が助けてくださいま

す。

神は助けてくれない,何もしてくれないと叫びたくなるときがあるかもしれません。本当に何もしてくれないのでしょうか。実は、もうすでにしてくださっているのではないですか。いいですか。主は、十字架の苦しみの中にあっても父なる神の約束を信じ続け、いのちを捨ててくださいました。その信仰のゆえに父なる神は子なるキリストを死からよみがえらせました。それでもまだ何もしてくれないと言いますか。すでにしてくださっています。

私たちがすることは一つだけです。主が十字架でされたように、神の約束を信じ続けていくこと。そのような人たちこそが持っている者たちであると言うのです。主は信じて待ち望む者を裏切ることはありません。さらに与えてくださると約束してくださいます。